

## 新型コロナウイルス感染症のモニタリング状況

【集計期間（陽性探知日）】

R4.3/14(月) ~ R4.3/20(日)

令和4年第11週

### <感染の状況（直近1週間）>

項目		現況	前週	ステージⅢ <sup>※1</sup> 指標	ステージⅣ <sup>※1</sup> 指標
陽性者数	① 合計 <sup>※2</sup>	6679人	8675人	-	-
	② 対人口10万人	433.7人	563.3人	15人以上	25人以上
	③ 前週との増加比	0.77	0.85	-	-
④ 感染経路不明割合（%）		95%	94%	50%以上	50%以上
⑤ 陽性率 <sup>※3</sup> （%） = 陽性者数 ÷ 検査件数		44.6%	49.8%	5%以上	10%以上

※1 ステージ分類の指標は、新型コロナウイルス感染症対策分科会資料(令和3年4月15日)参照

※2 市内医療機関から川崎市保健所に届出のあった人数を掲載しています。

※3 ⑤陽性率について

自費検査を行う市外の検査機関等で検体が採取された方についても市内医療機関から陽性者の届出がされる事例が多数確認されており、①陽性者合計から市外の検査機関等で検体採取が確認された陽性者数を除いて算出しています。検査件数は、川崎市健康安全研究所による検査件数と市内医療機関から直近の日曜日までに新型コロナウイルス感染症医療機関等情報支援システム(G-MIS)により報告があった検査件数(速報値)の合算を用いています。

### <医療提供体制等の負荷>

項目		現況	前週	ステージⅢ <sup>※1</sup> 指標	ステージⅣ <sup>※1</sup> 指標
<報告日>		3/20現在	3/13現在	-	-
⑥ 入院患者 (陽性確定例)	入院中の患者数	161人	215人	-	-
	確保病床数	477床	477床	-	-
	病床使用率	33.8%	45.1%	20%以上	50%以上
⑦ 重症患者 (陽性確定例)	入院中の患者数	15人	14人	-	-
	確保病床数	69床	69床	-	-
	病床使用率	21.7%	20.3%	20%以上	50%以上
療養者数 (入院、自宅及び宿泊療養) (陽性確定例)	⑧ 合計	6365人	8593人	-	-
	⑨ 対人口10万人	413.3人	558.0人	20人以上	30人以上

## <参考数値>

項目	現況	前週	ステージⅢ <sup>※1</sup> 指標	ステージⅣ <sup>※1</sup> 指標
<報告日>	3/20現在	3/13現在	-	-
⑩ 入院率 <sup>※4</sup> (%) = 入院中の患者÷療養者数 (陽性確定例)	2.5%	2.5%	40%以下	25%以下

※4 入院率は、神奈川モデルに基づき、入院適応を総合的に決定しており、「入院率」の指標では病床ひっ迫状況を計ることができないため、参考数値

## <変異ウイルス検出状況>

ゲノム解析結果 (川崎市健康安全研究所、国立感染症研究所、民間検査機関の解析結果を掲載)

	直近1週間 R4.3/14 ~ R4.3/20	前週 R4.3/7 ~ R4.3/13	累計 R3.3/11 ~ R4.3/20
α株 (アルファ)	0件	0件	203件
β株 (ベータ)	0件	0件	0件
γ株 (ガンマ)	0件	0件	0件
δ株 (デルタ)	0件	0件	626件
ο株 (オミクロン)	37件	67件	512件

オミクロン株が検出された場合は、都道府県単位として神奈川県が県内状況を一括して発表を行っているため、ここではこれまではバー(—)表示としてきたところですが、川崎市内でもオミクロン株の増加がみられているため、第2週より川崎市内のオミクロン株の検出状況についても示すこととしました。

なお、ここで記載しているオミクロン株の検出件数は、ゲノム解析によって確定された数です。

## <評価>

川崎市内における新型コロナウイルス感染症のモニタリングでは、令和4年第1週（1月3日～9日）から第5週（1月31日～2月6日）にかけて、新規陽性者数の急速な増加がみられましたが、第6週13,960人をピークに第11週（今週：3月14日～20日）6,679人まで、5週連続して減少しています。

入院患者は第7週335人をピークに、第11週（今週）161人まで4週間連続して減少しています。

重症患者数は第5週11人から第8週30人まで少数ながら増加が続いていましたが、第9週25人、第10週（前週）14人と2週続けて減少し、第11週（今週）は15人とほぼ横ばいとなっています。

療養者数（入院・自宅および宿泊療養者数）は、第5週17,136人をピークに第8週9,667人と3週連続して減少が続いていました。第9週は9,885人とやや増加しましたが、第10週（前週）は8,593人、第11週（今週）6,365人と再び減少となりました。

ステージ分類は、第5週から5週連続して5/6項目がステージⅣ、第6週から4週間連続して1/6項目がステージⅢとなっていました。第10週（前週）は入院患者病床使用率がステージⅣからステージⅢとなったことにより、ステージⅣは4/6項目と1項目減少し、ステージⅢが2/6と1項目増加となりました。第11週（今週）はステージ分類に動きはなく、ステージⅣが4/6項目、ステージⅢが2/6項目のままとなっています。

### <感染の状況：直近1週間>

① 新規陽性者数は、昨年第49週（令和3年12月6日～12日）に7人と昨年で最も低い数値となりました。第50週～第52週は微増、年が明けて第1週522人から、第2週2,569人→6,882人→12,534人→13,617人と急増しましたが、第6週の13,960人をピークとして、第7週12,983人→10,908人→10,205人→8,675人、そして第11週（今週）は6,679人と5週連続して減少しました。

② 対人口10万人あたりの新規陽性者数は、昨年第48週・第49週は0.5人と昨年で最も低い数値が続きましたが、第50週～第52週と微増し、年が明けて第1週33.9人から、第2週166.8人→446.9人→813.9人と急増しました。第5週は884.2人、第6週は906.5人と増加幅が小さくなりピークとなり、第7週843.1人→708.3人→662.7人→563.3人、そして第11週（今週）433.7人と5週連続して減少に転じています。

ステージ分類は、第1週から第11週（今週）まで11週連続してステージⅣのままとなっています。

③ 前週との増加比は、昨年第48週0.40、第49週0.88と低い数値でしたが、第50週～第52週と微増。年が明けて第1週18.0、第2週4.92と急増しましたが、第3週2.68→1.82→1.09→1.03と減少が続き、第7週に0.93と1.0を下回り、第8週0.84とさらに低い値となりました。第9週は0.94と微増しましたが、第10週（前週）0.85、第11週（今週）0.77と再び減少しました。1.0以下は5週連続しています。

④ 感染経路不明者の割合は、昨年第52週の72%から、第1週68%→79%→79%→85%→88%→91%→92%→91%→93%、そして第9週・第10週（前週）はともに94%、第11週（今週）は95%と高値が続き、12週連続してステージⅣのままとなっています。

⑤ 検査陽性率は、算定方法を昨年34週から変更しております（表の説明※3）が、第32週の42.9%をピークに減少に向かい、第48週、第49週は0.2%でした。第50週～第52週は微増し、年が明けて第1週9.4%から、第2週26.4%→39.4%→43.6%→51.1%→52.4%と増加が続きました。そして第7週50.0%→55.1%→50.7%→49.8%、第11週（今週）は44.6%と推移しています。

ステージ分類では、第2週～第11週（今週）と10週連続してステージⅣのままとなっています。

### <医療提供体制等の負荷：報告日3月20日現在>

⑥ 入院中の患者数は、昨年第49週は2人までと少数となりました。第50週5人→14人→16人と微

増し、年が明け第1週 23 人から、第2週 75 人→134 人→216 人→280 人→298 人と増加し、第7週 335 人をピークに、第8週 322 人→279 人→215 人、第11週（今週）は 161 人と4週連続して減少しました。

確保病床数は現在 477 床となっており、入院病床使用率は、昨年第52週 3.4%から、第1週 4.8%→15.7%→28.1%→45.3%→58.7%→62.5%と急増しましたが、第7週 70.2%をピークとして、第8週 67.5%→58.5%→45.1%、そして第11週（今週）33.8%と4週連続して減少しました。

ステージ分類では第5週～第9週と5週連続してステージⅣとなっていました。第10週（前週）、第11週（今週）は2週連続してステージⅢとなりました。

- ⑦ 重症入院患者数は、昨年第47週～第52週は0～1人を前後し、今年に入って第1週は0人でしたが、第2週 1人→3人→4人→11人→21人→25人→30人と増加しました。しかし、第9週 25人、第10週（前週）14人と2週連続して減少し、第11週（今週）は15人と停滞しています。

重症者の確保病床は現在 69 床となっており、重症病床使用率は、昨年第47週から本年第2週の間は0%～1.4%を繰り返していましたが、第3週 4.3%→5.8%→15.9%→30.4%→36.2%と増加が続き、第8週 43.5%をピークに、第9週 36.2%、第10週（前週）20.3%と2週連続して減少、第11週（今週）は21.7%と停滞しています。

ステージ分類では第6週～第11週（今週）の6週連続してステージⅢ（指標は20%以上）となっています。

- ⑧ 陽性確定例の入院・自宅および宿泊療養者総数は、昨年第49週は8人まで減少しましたが、第50週～第52週と微増が続き、年が明け第1週 367 人から、第2週 1,785 人→4,743 人→8,677 人→17,136 人と急増しました。第5週 17,136 人をピークとして、第6週は 11,274 人→10,903 人→9,667 人と減少しましたが、第9週は 9,885 人と微増し、第10週（前週）は 8,593 人、第11週（今週）6,365 人と再び減少となりました。
- ⑨ 陽性確定例の入院・自宅および宿泊療養者数の対人口10万人は、昨年第48週 0.8 人、第49週 0.5 人まで少なくなりました。第50週～第52週は微増、年が明け第1週 23.8 人から、第2週 115.9 人→308.0 人→563.4 人→1,112.7 人と急増しました。第5週 1,112.7 人をピークに、第6週 732.1 人→708.0 人→627.7 人と減少し、第9週は 641.9 人と微増しましたが、第10週（前週）558.0 人、第11週（今週）413.3 人と、再び減少となりました。

ステージ分類は、第2週～第11週の11週連続してステージⅣのままとなっています。

#### <変異ウイルス検出状況>

今週はデルタ株の追加はなく、オミクロン株が37件追加となり、令和3年3月11日～令和4年3月20日までにゲノム解析で判明したデルタ株累計は626件と変わらず、オミクロン株累計は512件となっています。

なお、ここで記載しているデルタ株、オミクロン株の検出件数は、スクリーニング数ではなく詳細なゲノム解析によって確定された数となっています。

川崎市内における新型コロナウイルス感染症のモニタリング第11週（3月14日～20日）は、重症入院患者数が停滞となりましたが、新規陽性者数、入院中の患者数、入院・自宅および宿泊療養者総数については減少が続いています。

日常生活に大変なご不便、ご迷惑をおかけしていましたが、川崎市を含む神奈川県および首都圏1都3県を含む全国18都道府県は、3月22日よりまん延防止重点措置が解除となり、全国で緊急事態宣言・まん延防止重点措置の適用地域はなくなりました。新型コロナウイルスに感染しないよう、広がりを抑えるようにするのは、市民お一人お一人の注意によるところが大ですので、これらの減少傾向は、まさに市民の皆様の注意の現れであるといえます。

まん延防止重点措置は解除されましたが、新規感染者の発生状況は、昨年の第5波のピークの4,308人（第33週）を上回る6,679人となっています。措置解除に伴い、当然ながら制限はいろいろと緩和される方向性がありますが、感染が再び広がらぬよう、またご自分に及ぶリスクは少ないとしても身の回りの方が感染を受けて重症者にならぬよう、基本的な感染予防に関する注意は続けられるようお願いいたします。

三密を避ける、適切な距離が保てないなどの時は不織布マスクを正しくつける、閉鎖空間では換気をつける、手洗い・手指の消毒をこまめにするなどは、様々な場において感染を受けない、感染をさせないための基本的な注意点です。デルタ株であってもオミクロン株であっても、あるいは新たな変異株が出現したとしても、変わらない有効な予防対策法です。外での飲食やどちらかへお出かけになる機会も増えてくると思います。当面はやはり感染リスクの高い所や混雑する場所・時間帯は避け、少人数でゆっくりと過ごされるようお願いいたします。日常生活をできるだけ取り戻し、それが維持できるようになるため、引き続きご理解ご協力くださいますようお願いいたします。

なお、ワクチンを2回接種した人は、接種していない人に比べて入院率・重症化率は明らかに低くなるのが国内外から報告されています。一方、現在使用されている新型コロナワクチンは、2回の接種を受けても完全に発病を防げるわけではありません。その場合には軽症で済むことが大多数ですが、他の人に感染を広げることもあり、また中には中等症～重症になる場合もあるので、3回目の接種をできるだけ早く受け、ご自身の免疫を強めておくことをお勧めします。入院、ことに重症化する方のほとんどは高齢者です。現在川崎市内における高齢者の方々の3回目のワクチン接種率は、およそ76%となっています。高齢者のワクチン接種は、ご本人を守るだけでなく、医療のひっ迫を和らげて一般の医療もスムーズに行われるようになります。3回目のワクチン接種は、現在川崎市内ではファイザー社製とモデルナ社製の2種類が接種可能となっています。副反応に関してはファイザー社製のほうがモデルナ社製より若干低く、効果に関してはモデルナ社製のほうがファイザー社製より若干高くなると報告されていますが、両ワクチンに実際上の大きな差はありません。どちらのほうでも結構ですので、早めに3回目の接種を受けられることをお勧めします。もちろん2回接種がまだの方は、早く2回の接種を終えておくことをお勧めします。